

かしの木

第15号

社会福祉法人
せたがや榿の木会
機関誌第15号

2014.6 発行

就任のご挨拶



理事長 岩井 雄一

永年に渡り、「せたがや榿の木会」理事長を務めてこられました前理事長である鈴木昭雄氏が御退任され、三月十二日より理事長に就任いたしました岩井雄一と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

「せたがや榿の木会」は「世田谷区手をつなぐ親の会」が会員の皆様の永年の願いを実現するために平成十四年二月に設立した社会福祉法人と聞いております。このような親の会の皆様の思いを大切に、築き上げてきた法人の趣旨を踏まえ、事業所及び法人本部の運営に携わっていききたいと考えます。

簡単に自己紹介をさせていただきます。都立特別支援学校の教員をしておりました。世田谷区を学区としていた調布養護学校、青鳥養護学校、管理

職として多摩地区の養護学校3校、そして、最後は青鳥特別支援学校の校長として二年間務めた後、定年退職しました。現在は、十文字学園女子大学で特別支援学校の教員を目指す学生の指導をしております。

そのような訳で、法人が運営している各事業所にもお世話になった卒業生や保護者の皆さんがたくさんいらっしゃると思います。各事業所には、これからご挨拶に伺う予定ですので、その節はどうぞよろしくお願いいたします。

現在、法人が運営する事業所は、十事業所あります。ヘルパーステーション榿の木を除いては、いずれも日中活動の支援です。まもなく上町福祉作業所の建て替え工事が始まる予定です。新たな施設には、グループホームや短期入所施設が計画されています。障害があっても生まれ育った世田谷で暮らしていけるよう支えるという法人の使命に基づき、このような計画ができたことは本当によかったと思います。これまで準備をされてこられた皆様やご支援をいただいた東京都や世田谷区等に感謝しつつ、この計画を万全の態勢で進めていきたいと考えます。

今回、理事・評議員の定数を増やすとともに新しい役員も加わりました。慣れないながらも新しい体制のもと、世田谷区手をつなぐ親の会と緊密に連携し、法人職員や関係者の皆様とともに利用者の皆様の自立と社会参加を積極的に支援し、共生社会の実現を目指していきたいと考えます。これまでも同様にご支援を賜りますようお願い申し上げます。



就任のご挨拶

事務局長 佐藤 勝

この度、再度の事務局長を拝命しました。お世話になった鈴木前理事長が退任された後、約半年間職務代理の重責を微力ながら勤めさせて頂きました。これからは、岩井理事長の新体制のもとで、親の会の皆さまと一緒に「せたがや榿の木会」の更なる発展を目指し、利用者支援の向上に資するよう努めて参ります。そして、新上町福祉施設の完成を楽しみにしています。

平成二十六年、設立から十

二年目を迎える当法人は、今

後の更なる事業拡大、運営基

盤の一層の安定化を目指し、

一部の役員で構成される小

委員会にて、およそ一年以上

をかけて様々な検討を重ね

て参りました。

本年二月十日開催の理事

会・評議員会において、理事

及び評議員の定数変更が承

認されました。理事につい

てはそれまでの七名から九名

に、評議員は十五名から十九

名と定数がそれぞれ拡大さ

れました。併せて三月十一日

の任期満了に伴う、各役員

の選任・承認が行われ、第六

期目となる理事・監事・評

議員が就任いたしました。

三月十二日開催の理事会

では、互選によって岩井雄一

理事が理事長に就任し、せた

がや檜の木会が新たな体制

にてスタートを切ることに

なりました。

就任された役員を、理事・監事の皆様からのコメントと併せてご紹介致します。

(平成二十六年六月一日現在)

理事 (定数九名)

岩井 雄一 (理事長)

赤塚 光子

「せたがや檜の木会があるから安心だ。」と言っていただけの社会福祉法人を目指します。

大澤 真木子

小児神経学、小児科学専門で、現在日本てんかん学会理事長を務めております。患者さんと御家族のお役に立てれば幸いです。

大場 弘

多くの方達との触れ合いの中、色々勉強させて頂きたいと思えます。

上原 明子

今年度で法人設立第六期目となりますが、法人もあらゆる意味で新体制となりました。地域に根ざした法人として、障害のある人たちの地域生活が充実する事業を开拓していきたいと思えます。

池田 瑞枝

私達親の会の会員にとって、法人設立は悲願でした。この度、理事・評議員を拝命し、身の引きしまる思いで務めさせて頂きたいと思っております。

本庄 一聖

ご利用者の豊かで安定した生活のために、微力ながら務めさせて頂きたいと思います。

佐藤 勝 (事務局長)

堀田 和子

法人設立から十二年目を迎え、事業も拡大してきました。大切な時期、理事として頑張つて法人を支えていきたいと思えます。

監事 (定数二名)

大南 英明

監事をおおせつかりました。精一杯の運営に協力いたします。

須山 勇

税理士の知識と経験が会のお役に立つならばと、微力ながらお手伝いをさせて頂きたいと思います。

評議員 (定数十九名)

岩井 雄一

赤塚 光子

大澤 真木子

大場 弘

上原 明子

池田 瑞枝

本庄 一聖

佐藤 勝

堀田 和子

安藤 敏次

市村 壽子

堅山 順子

須山 恵美子

阿部 春子

中島 基子

新保 秀則

清水 洋子

川名 あき
佐藤 和貴



退職のご挨拶

水戸 都紀子

用賀福祉作業所で一年、法人事務局に一年、計二年間と短い間でしたが、皆様には大変お世話になり誠にありがとうございました。

障害福祉の事業がいろいろ厳しい条件下にあることを改めて知ったように思います。

利用者の皆さんの素直な意欲やご家族の温かい支えにふれたとき、また職員の皆さんの熱心な仕事ぶりにもいつも心動かされ励まされました。

今後、個性豊かなそれぞれの事業所がますます充実し、檜の木が力強い根を張って枝を伸ばし、豊かな森になっていくことを期待しています。



そして、これから

村瀬 精二

連翹の黄色、雪柳の白、そして待ち望まれる桜の蕾に背中を押されて、節目を刻むことになりました。人の道を得て、人心一新を図っていただきました。檜の木会十二年、お世話様でした。

下馬、千歳台で現場を担う中で多くのボランティアさん、地域の方に直接間接に支えられ、さらに「そうなのか」と気づく時はいつも利用者、家族、職員等からの多彩な刺激の中でした。うまくいったこと、いかなかったこと、楽しかったこと、苦しかったこと、時に失礼してしまったこと、それらが何とか自分の肥やしにできそうな有意義な時間をいただきました。

これから自分の持ち味を磨き、生かし、社会貢献する心づもりで……、次のお出合いの折を楽しみにして、ありがとうございました。

なるほどと此処の流儀を受け止めて私を語る間合いの四月

施設長就任の挨拶

千歳台福祉園 施設長 伊藤俊平

四月より、千歳台福祉園の施設長となりました、伊藤俊平です。どうぞよろしく願います。

千歳台福祉園は、サブミッションにおいて「利用者が安心して活動できる場を提供するとともに、本人主体のサービスの質の向上に努めます」ということを掲げています。

利用者さんが安心して過ごせるにはどのようなことを行っていけばよいか、本人主体とはどのようなものなのか、あらためて考えていきたいと思っています。

また、「生活介護」における支援は、職員間の連携、「チームワーク」がなければ成り立ちません。コミュニケーションを大切にし、職員一人ひとりが、より周りの人のことを考え、気遣い、思いやれる職場になるよう、職員みんなで意識していければと思っています。

そして、利用者さんや職員が、今よりもっと笑顔で過ごせる場所にしていきたいです。

檜の木らしさ

下馬福祉工房 施設長 川名あき

民営から区立へ、同じ障害者支援の仕事とはいえ、違いは多々あることが予想されました。まずは、職員の専門性の高さに目を見張りつつ……しかし、その不安を払拭するほどのパワー溢れる歓迎を受け、やはり利用者の方々のバイタリティとやさしさは、どこに行っても変わらないと感じています。

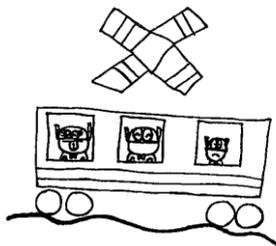
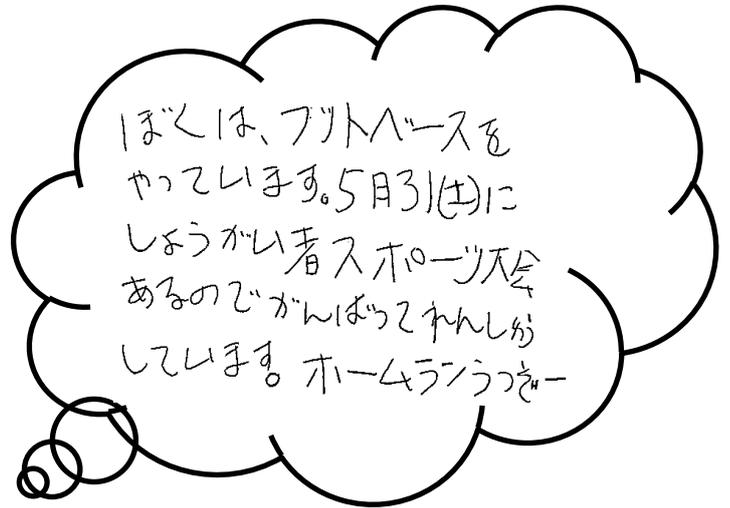
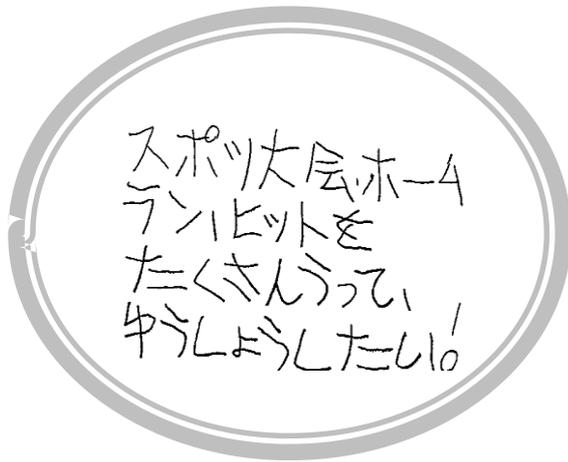
お母さま方が作り上げてきた民営のあたたかさ、専門教育を受けた職員が積み上げてきた区立の頼りがい、これからは、互いに知り合うことで自分たちの良さと改善点に気づき、ゆっくりと混じり合っていく。そうしていくうちにきつと檜の木らしい支援のあり方が見えてくるのでしょうか。

私をこの世界へいざなってくれた喜多見の利用者の皆さんに感謝しながら、利用者のことをいきいきと語る職員が大勢いる檜の木を目指し、今後努力を重ねてまいります。皆様どうぞよろしく願います。

利用者さんのひとことコーナー

大原福祉作業所

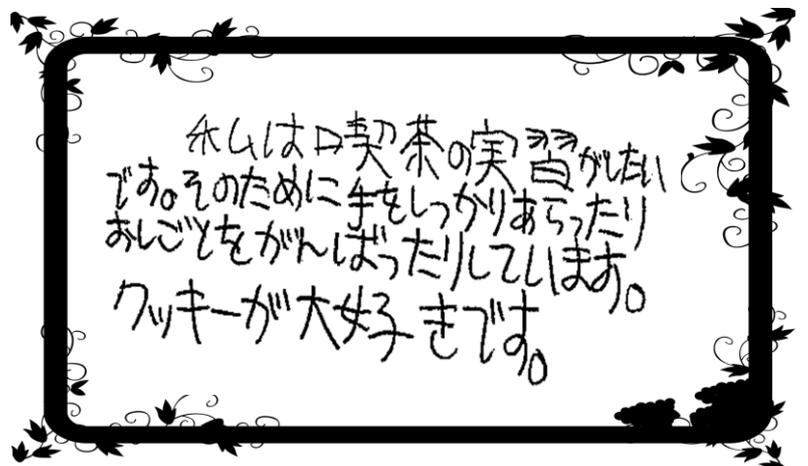
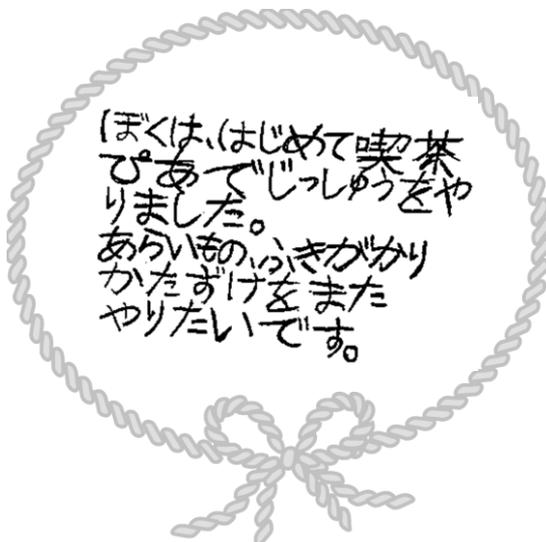
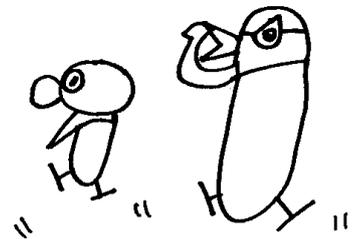
「私のがんばったこと・がんばりたいこと」
をテーマに、思い思いに書いていただきました



かんバッテ夏までやる!!

1万歩 みる!!

おなかを1にます) これを目標にして
あやつをやめる) かんパルズ
お茶をのむ



地域に広がるわくわくまつり

わくわく祖師谷 木村 卓郎

まだ肌寒さが残る三月八日(土)、恒例になった「砧支えあいフェスタ(わくわくまつり)」が開催されました。快晴に恵まれ、寒い中たくさんの方々が訪れて下さいました。

施設の表では、やきそば、餃子など盛りだくさんの屋台で、長い行列が出来ていました。中でも「そば打ち」は、表でそば打ちそのものを実演してくださり、打ちたてのそばをそのまま食堂で食べることで、皆さんの間に笑顔が広がっていました。

また、わくわく名物のパンも大盛況でした。二階での手工芸品の販売も、たくさんの方で賑わっていました。三階では、地域グループの発表が行われ、わくわく祖師谷からは、B型の利用者さんと結成された「わくわくダンス」が「アラジン」のダンスを披露し、大きな拍手を頂いていました。ご家族様、ボランティアの皆様をはじめ、多くの方々に支えられ、無事大成功に終わることができました。今後もお祭りを通して地域の皆様との交流を深め、笑顔が広がる場になる事を願っています。



おたがいさまフェスタ2014

下馬福祉工房 長見 亮太

三月の三軒茶屋の名物、おたがいさまフェスタ。晴天の中、多くの皆さまにご参加頂きました。地域の方に下馬福祉工房の良さをより知って頂けるよう、今年は新しい試みも積極的に取り入れました。

まず今年のポスターは下馬Tシャツのデザインが採用され、三茶の街中に富士山の後光に照らされた下馬の面々が登場！また共催の世田谷ボランティア協会とふらっとと共同で、コラボカフェが実現。工房のクッキーと共に、喫茶実習で培った接客スマイルをサービスする利用者さんの姿が眩しいです。

恒例のゲームコーナーは腕相撲大会と新企画のシャッフルゲーム。普段の誕生会などで回を重ね、腕を磨いた

利用者さんが、ここぞとばかりに積極的に主役になってお客さんを招き入れる。日頃の経験の積み重ねが、特別な場でも自分を表現し発揮する素地になっているのだな、と改めて思いました。

下馬会の皆さまによる豚汁、炊き込みご飯もおかげさまで完売！利用者さんもご家族もボラさんも職員も、皆がフェスタを盛り上げようと一所懸命になり、誰もが主役！と思えた一日でした。

研修委員会報告 「次を託して」

村瀬 精二

「職員養成の柱を確かなものにと、二十六年度の研修計画をまとめました。①新人研修②現場研修③年次別研修④セミナーの四本柱です。」

研修をいかに充実させるか、それは一にかかって参加者お一人おひとりの自覚です。受け身ではなく、主体的に、課題意識をもって臨まれることを期待します。受け入れ側も同様で、伝えたいことを洗練し作り上げていたいただきたい。ともあれ、先々を託す職員の歩みを支える企画となっています。特に現場研修の枠を有期契約職員

まで広げ、現場を支える底力へのテコ入れです、ご参加ください。

二月の西原セミナーは七十名程の参加で、エピソードを軸に支援の質を高める姿勢を学びました。また世田谷福祉区民学会へのレポート参加を意図して「レポート検討会」を立上げ、六人が作成し、セミナーで代表作を発表しました。この場を実践報告の場としても考えています。次のセミナーは六月、個別支援計画をテーマにしています。ご期待ください。

世田谷区手をつなぐ親の会

知的障害者の権利を守り、
教育と福祉の充実を目指し活動しています。

〒154-0022 世田谷区梅丘 1-24-14
フリート梅丘 301
TEL 03-3706-0067 FAX 03-3706-0246
URL : <http://oyanokai-setagaya.com>

職員人事のお知らせ

退職

(十二月三十一日付)

わくわく祖師谷

支援員 青木 綾

(三月三十一日付)

本部事務局

事務局長 水戸 都紀子

千歳台福祉園

施設長 村瀬 精二

下馬福祉工房

施設長 吉田 快永

わくわく祖師谷

主任 鈴木 美和

ヘルパーステーション榎の木

支援員 小林 菜穂

異動(四月一日付)

本部事務局

事務局長 佐藤 勝

(元理事長職務代理)

事務員 北川 友幸

(前上町福祉作業所 所長)

千歳台福祉園

施設長 伊藤 俊平

(前千歳台福祉園 主任)

主任 高橋 里雄

(前千歳台福祉園 支援員)

下馬福祉工房

施設長 川名 あき

(前喜多見福祉作業所 所長)

主任 甲斐 実

(前下馬福祉工房 支援員)

支援員 廣瀬 伸孝

(前わくわく祖師谷 支援員)

わくわく祖師谷

主任 上原 十方

(前千歳台福祉園 支援員)

上町福祉作業所

所長 佐藤 勝

(事務局長兼任)

主任 齋藤 由子

(前下馬福祉工房 主任)

喜多見福祉作業所

所長 佐藤 勝

(事務局長兼任)

新任(四月一日付)

千歳台福祉園

支援員 関崎 淳一

神山 賢治

吉田 和弘

わくわく祖師谷

支援員 石村 嘉孝

鈴木 麻子

上町福祉作業所

支援員 平川 晶子

ヘルパーステーション榎の木

支援員 小松 さおり

西海 範之

(六月一日付)

喜多見福祉作業所

所長 安達 みち子

(仮称) 上町福祉施設

整備計画について

一昨年来より準備を進めて参りました、上町福祉作業所の建て替え及びグループホーム・短期入所の整備計画につきまして、先般、平成二十五年度補正予算による国庫補助の内示が下り、正式に整備に着手する運びとなりました。平成二十七年六月の開設を目前に、現在準備を進めております。

～編集後記～

法人内各事業所を利用されている皆様から、これまでに寄せられたイラストを、6点使用させていただきました。ご協力ありがとうございました。

編集発行

社会福祉法人せたがや榎の木会 広報委員会

〒155-0033 東京都世田谷区代田1-29-5

TEL 03-5481-1010

FAX 03-5787-4051

E-mail setagaya-kasinokikai@poppy.ocn.ne.jp

URL : <http://kashinokikai.net>